

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 13-6
評価実施期間：平成 27 年 11 月 1 日から平成 28 年 2 月 4 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060972 060892 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 27 年 10 月現在）

事業所名：社会医療法人財団慈泉会 （施設名）地域在宅医療支援センター塩尻診療所	種別：訪問リハビリテーション	
代表者氏名：理事長 相澤 孝夫 （管理者氏名） 小林 茂昭	定員（利用人数）： 41 名	
設置主体：社会医療法人財団慈泉会 経営主体：地域在宅医療支援センター塩尻診療所	開設（指定）年月日： 平成 24 年 6 月 1 日	
所在地：〒399-0744 長野県塩尻市大門桔梗ヶ原 79-2		
電話番号：0263-53-8611	FAX 番号：0263-53-8621	
ホームページアドレス： http://www.ai-hosp.or.jp		
職員数	常勤職員： 5 名 非常勤職員 名	
専門職員	（専門職の名称）	
	理学療法士	5 名
	作業療法士	2 名
	言語聴覚士	1 名
施設・ 設備の概要	（居室数）	（設備等）
	事務室 相談室	

3 理念・基本方針

理念

私たちは在宅で療養する人びとの尊厳と自立を尊重し、良質な医療・介護・福祉サービスを提供します。地域の関連機関と密接な連携を図り、地域在宅医療支援センターの総合力を活かし、皆様が住み慣れた場所で安心して暮らせる地域創りをします。医療・介護・福祉の専門家として質向上と人材育成に真摯に取り組み、地域の皆様へ安全で信頼できるサービスを提供します。

基本方針

ご利用者の心身機能を維持改善し、日常生活の自立だけでなく家庭内や地域で役割をもち意欲的に社会活動に参加ができるよう、病気や障害だけでなく社会の中の個人として生活することにも目を向けたりハビリテーションを実施します。個々の目標を具体的かつ明確にし、ご利用者の可能性を最大限に引き出せるよう、可能な限りのリハビリの計画案や介護方法を提示し、ご利用者が選択できるサービスを提供します。そのために、職員教育の強化・地域への啓蒙および貢献活動に継続して取り組みます。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーションを併せ持つ複合事業所としての総合力を活かし、事業所祭りや広報活動、地域に出向いた講習会や事業所内外での研修会などを行い、地域の医療・介護のニーズに応えるよう積極的に活動しています。また、質向上のため積極的に外部研修会・学会活動に参加するなど各々が自己研鑽に励んでいます。

母体である相澤病院とはもちろんのこと、地域の医療機関や介護サービス事業所との連携に力を入れています。かかりつけ医との面談も積極的に行い、ご利用者に安心と信頼の置けるサービスを提供できるよう「見える連携」を心がけています。

小児から高齢者、脳血管疾患・整形疾患・呼吸や循環器疾患・癌・神経難病・廃用症候群・発達障害等々あらゆる疾患を有する方々の訪問リハビリテーションに対応しています。

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が在籍し、多角的な視点での療養支援を実現しています。

また、ケアマネジャー様からの介護計画立案に関わるご相談に対し訪問リハビリテーションの視点からのアドバイスを行うなど、無料の訪問リハビリ相談窓口を設けています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数	今回初受審
------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

< 組織運営 >

法人は時代や地域の要請に耳を傾け、安心して暮らせる地域を創るとしたミッションを新にし、そのミッションの実現を目指したビジョンを策定し、地域在宅医療支援センターを在宅療養の情報と連携の中心とする拠点整備を推進して来られた。毎朝、朝礼でミッション・ビジョンを読み合わせ、その使命に向き合い、地域在宅医療支援センター塩尻の職員としての一体感を組織の基盤に置いている。塩尻診療所訪問リハビリテーションのビジョンの実践においては全職員が担当・参加するプロファイル(事業所ごとの方針や計画)の目標達成に向けて所属意識を持って主体的に行動する職員を、管理者のリーダーシップによりサポートしている。さらに、様々な症例に応じて行くことが出来るセラピストを育成すると共に、在宅療養者を支援する地域在宅医療支援センター塩尻の機能の充実を図る運営に取り組んでいる。

< 多職種連携 >

塩尻診療所訪問リハビリテーションは、塩尻の地で、顔の見える関係を大事にし、独立した組織として地域と一体的に取り組んできた。地域の開業医からの信頼が厚く、直接の訪問依頼なども多く、法人の理念に基づいた地域に根差した事業展開がなされている。地域講習会の定期的実施など地域の医療福祉関係者との連携に積極的に取り組んでいる。センター内でも、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が一人の利用者に複数人で関わる複数担当制を推奨している。また、同じ事業所内に、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーションが併設されており、日常的に情報交換、連携を図っている。また、主治医の指示の下、利用者宅に訪問して実施するサービスの特性もあり、主治医面談を初回と終了時に原則とし、状態に応じ随時、実施している。

< 質の向上への取り組み >

全ての職員に対し、職務要件書、ローテーション計画書があり、自己啓発のための目標を定め研修に取り組んでいる。OJT(実施研修シート)等により達成度を確認し個別の質の向上に計画的に取り組んでいる。毎年取り組む実施計画として、昨年は、訪問リハビリテーションの実施指導の工夫として同行訪問シートの取り組みを行い、同行訪問運用マニュアルの作成により、上位等級職員から指導、助言など教育的実施指導の場として同行訪問の活用をしている。職員間での多角的な視点から検討が行えるようになった。

今年は、訪問リハビリテーション軽快終了者の追跡検証を行う等、毎年の実施計画により、訪問リハビリテーションとしての課題分析を行い、更なる教育体制の工夫につなげている。

特に改善する必要があると思う点

<利用者満足調査の実施>

法人全体としての満足度調査は行っている。今後、塩尻診療訪問リハビリテーション事業所として直接かかわる利用者、家族からの満足度調査等の定期的な実施、内容により、組織的な継続的な取り組みが必要と思われる。調査結果を検討・分析することが組織的に行われることで職員の利用者満足への意識向上にもつながり、共通の問題意識のもとに改善の取り組みにつながるものと思われる。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

評価対象 1 福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象 組織の運営管理(別添 1)

評価対象 適切な福祉サービスの実施(別添 2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添 3 - 1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）

（平成 28 年 2 月 12 日記載）

私たちは今日に至るまで、地域の皆様の健康を支えるべく明確な理念と方針を軸として、安全・信頼・質すべての点において皆様に満足いただけるよう、職員一丸となって体制の評価と改善に取り組んで参りました。今回、私たちの日々の努力と業務の積み重ねが高く評価いただけたことを大変光栄に思います。また、自らの運営状況を客観的な視点で振り返ることで、改善を要する点を改めて確認する良い機会となりました。

今後の課題として、ご利用様を始めとする地域の皆様の生の声を積極的に聞き、ニーズや満足度の把握に向けた体制を見直していきます。また、整備してきた組織体制や規程、絶え間なく更新される膨大な事業所内外の情報や専門知識・技能を、全職員にくまなく浸透させ均質なサービス提供につながるよう教育体制作りの強化を継続します。

今回の評価結果は私たちの更なる地域貢献への励みとなりますが、ゴールではなく前進のための一つのステップとして受け止め、結果に甘んじることなく、地域の関連機関とともに高めあい協働し、高度で充実したサービスを地域全体に提供できるよう努めて参ります。